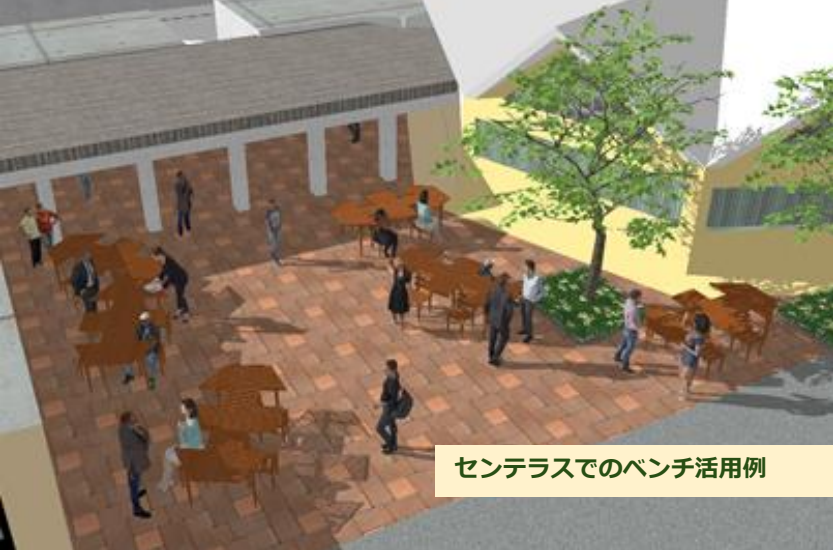




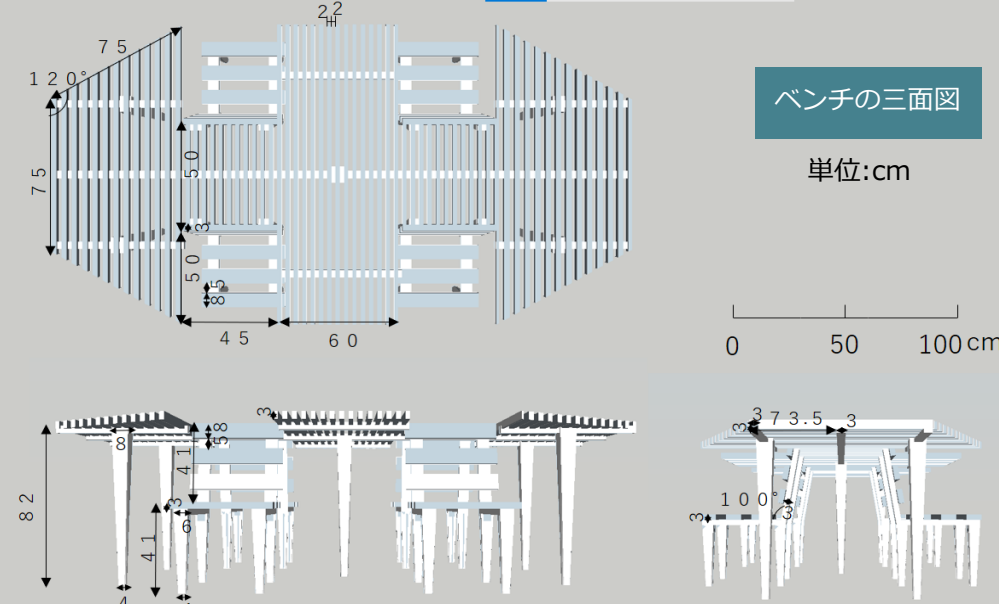
センテラスでのベンチ活用例



U2・U3棟周辺でのベンチ活用例

人が集まる 人を繋げる 人と暮らす

登録番号：010



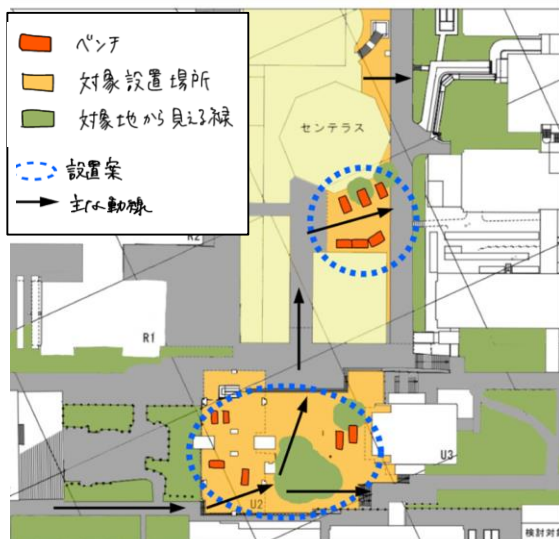
ベンチの三面図

単位:cm

コンセプト

工学部には生活の中で交流や憩いを提供してくれる場所が少なく、さらに感染症の蔓延によりそのような機会も失われてしまいました。そのため交流を生みやすく、オープンスペースを最大限に活用できるベンチを考えました。座る場所を提供することだけがベンチの役割ではなく、ベンチを利用することで自然に人が集い新しい繋がりを生み出されることが期待されます。誰でも、何人でも使えるベンチで、多くの人が集まり、交流が生まれる機会を得るきっかけになればと思います。

配置計画



日照・風通しや動線を考慮して配置しました。
・センテラス周辺(6台)：年中利用出来る
・U2・3棟周辺(6台)：冬期の利用は不向き
⇒U2棟下は暗く、U3棟前は日陰が出来やすく風通しが良いため。

特徴

■想定する利用シーン

食事や雑談などの短時間の滞在を想定し、トレイやパソコンを置けるテーブルを設置しました。**多方向に座れる4つの座席**は、用途や使用人数に応じて様々な活用が可能です(下図参照)。

▼利用イメージ



■1人で利用する場合



■複数人で利用する場合

■健康への配慮

立ってテーブルを使用することができ、集中力を向上しデスクワークによる体の負担を軽減します。また椅子同士の距離を空けることで、ソーシャルディスタンスを促しやすい構造となっています。

■オンライン授業への対応

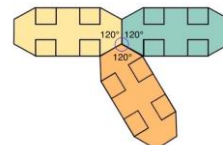
対面とオンライン授業を併用するようになり、学校でオンライン授業を受講する機会が増えましたが、今キャンパス内で受講に適した場所はありません。そこで、椅子と椅子の間のテーブルはパソコン2台を並べておける広さを確保し、気軽に外で授業が受けられるような設計にしました。



構造と機能性

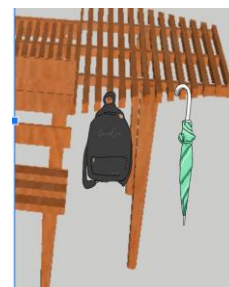
■テーブルの設計

ベンチの両脇に六角形を分割した形を配置することで**120°の角**、そして多くの直線が生まれるため、様々な形に組み合わせて使用することができます。さらに両端を持ち、運びやすい設計となっています。



■テーブルのデザイン

面を隙間のある構造にすることで、水やごみが溜まりにくく、腐敗を防ぐことができます。また間が空いていることで傘(日傘・雨傘)や鞆などをかけることができ、より快適にベンチを使用できます。また1枚の板であればその重みにより時間が経つと**たわみ**が生じますが、数枚の板を組み合わせることでこのたわみを防ぐことができ、より丈夫で長期間利用できるベンチとなります。



■脚の構造

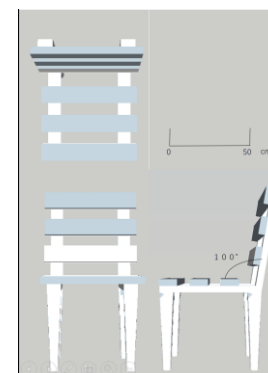
テーブル・椅子の脚を**面取り**することでスタイリッシュなデザインになります。また足を打つ心配が少なくなり、向きを変えて座りやすくなるでしょう。

■材料の加工

デザインを尊重しつつ、経済性にも配慮するために、木材の加工を曲線ではなく直線・斜めとなっています。

椅子の設計とデザイン

椅子部分は身体への影響を考慮した設計となっています。一般的な疲労回復を目的とし、様々な目的でできるように活動と休息の間の体勢を保てるよう座面と背もたれの間の角度を100°としました。(参考文献)
また座面に隙間をつくることで劣化、腐敗を防ぐ構造となっています。椅子の向きについては様々な人が周りに関係なく使えるように**ソシオフーガル**となる外向きに配置し、椅子に座って左右に体の向きを変えられる構造にすることで周囲との交流も可能とするような作りとなっています。



▲椅子の三面図

※参考文献
西川友武：研究と製作
家具工藝.:p35-45. 昭和27年。

U2棟の活用(発展)

U2棟下は照明は付いていますが、日中でも暗く、オープンスペースの有効的な活用が妨げられているのが現状です。しかし、このスペースは野外ではありますが、屋根があり雨風を防ぐことができ、明るさの問題を解決すれば一年を通して人々が集いやすい空間をつくるのが可能です。また夕方や夜も照明があることで長時間オープンスペースとして活用でき、安全面でも安心して使用することができます。このことから、U2棟下については照明も同時に設置することを提案します。

U2棟下▶
照明導入イメージ

